平成28年度全国学力・学習状況調査を踏まえた
分析と改善方策について

印南町立清流小学校

1　調査の概要

（１）調査日　　平成２８年４月１９日（火）

（２）調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から，全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し，教育施策の成果と課題を検証し，その改善を図る。
◇児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
◇教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（３）調査内容

調査の対象　　小学校第６学年　　１０　名

教科に関する調査　　国語、算数

- 主として知識に関する問題（Ａ）
- 主として活用に関する問題（Ｂ）

生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 児童質問紙調査　------------　学習意欲，学習方法，学習環境，生活の諸側面等
- 学校質問紙調査　------------　指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等

２　教科に関する調査結果の概要

国　語

〇漢字を正しく読んだり書いたりすることは良好であるが、ローマ字を正しく読んだり書いたりすることに課題がある。
〇目的に応じて図と表を関係づけて読むことは概ね良好である。
〇グラフや表から読み取ったことを基に自分の考えを書くことは概ね良好である。

（１）国語Ａ（知識）

◇漢字（快晴、省く）を読むことは、すべての児童ができている。
［Ａ1ー１・Ａ1ー３　100%］
◇漢字（種、親しい）を書くことは、ほぼすべての児童ができている。
［Ａ1二１、２　95%］
◇目的に応じて、図と表を関係づけて読むことは、すべての児童ができている。
［Ａ5　100%］
◆登場人物の人物像について、複数の叙述を基にして捉えることに課題がある。
［Ａ6　50%］
◆ローマ字を読むことや書くことに課題がある。　［Ａ8１、３　50%］

（２）国語Ｂ（活用）

◇話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って質問することは、多くの児童ができている。　［Ｂ1三　80%］
◇目的や意図に応じて、グラフを基に自分の考えを書くことは、多くの児童ができている。　［Ｂ2二（１）80%］
◆グラフを基に、分かったことを的確に書くことに課題がある。　［Ｂ2ー　30%］

平均正答率（%）

学習指導要領の領域等	国語（A）	国語（B）
話すこと・聞くこと	60.0	66.7
書くこと	65.0	63.3
読むこと	75.0	63.3
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	82.0	―

全国平均に比べて５ポイント以上　上回る（青字）・下回る（赤字）

算　数

〇数量関係の知識・理解及び技能において確実性が高い。
〇図形の性質や特徴を概ね理解している。
〇示された情報を基に言葉や式を使って説明や理由を記述することに課題がある。

（１）算数Ａ（知識）

◇末尾の位のそろっていない小数の加法の計算をすることは、すべての児童ができている。 ［Ａ2（２）100%］
◇小数の除法の計算をすることは、すべての児童ができている。［Ａ2（３）100%］
◇直方体における面と面の位置関係を理解することは、すべての児童ができている。 ［Ａ7 100%］
◆１を超える割合を百分率で表す場面において、基準量と比較量の関係を理解することに課題がある。 ［Ａ9（２）50%］

（２）算数Ｂ（活用）

◇示された条件を基にほかの正方形について検討し、同じきまりが成り立つかを調べることは、すべての児童ができている。 ［Ｂ1（１）100%］
◇示された説明を解釈し、用いられている考えを別の場面に適用して、その説明を記述することは、ほぼできている。 ［Ｂ1（２）70%］
◆縦にかくことができる正方形の数を求め、２４個の正方形をかくことができる理由を記述することに課題がある。 ［Ｂ3（２）20%］
◆図形を構成する角の大きさを基に、四角形を並べてできる形を判断することに課題がある。 ［Ｂ5（２）０%］

平均正答率（%）

学習指導要領の領域等	算数（A）	算数（B）
数と計算	94.0	45.0
量と測定	80.0	44.0
図形	95.0	23.3
数量関係	66.7	40.0

全国平均に比べて５ポイント以上　上回る（青字）・下回る（赤字）

３　質問紙調査の結果の概要

（１）勉強が「好き」「どちらかといえば、好き」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国よりも大きい。

	国語	算数
学校	90.0	100.0
県	55.6	68.4
全国	58.3	66.0

（２）授業の内容が「よくわかる」「どちらかといえば、よくわかる」と思う児童の割合は、国語・算数ともに全国や県を上回る。

	国語	算数
学校	100.0	100.0
県	81.2	82.6
全国	80.7	80.2

（３）平日に授業時間以外に全く勉強しない児童はいない。１時間以上勉強をしている割合は、学校90.0、県61.6、国62.5で、学習時間の長い児童が多い。一方、休日に全く勉強しない児童の割合は全国と同じくらいである。

	平日	休日
学校	0.0	10.0
県	3.8	14.5
全国	3.0	10.2

（４）国語の授業で意見などを発表するとき、うまく伝わるように話の組み立てを「工夫している」「どちらかといえば、工夫している」児童の割合は、全国・県より大きい。

学校	80.0
県	57.4
全国	62.3

（５）「家の人と学校での出来事について話をしますか」について、「している」と回答した児童の割合は全国・県を上回る。

学校	80.0
県	52.6
全国	52.4

（６）今住んでいる地域の行事に「参加している」「どちらかといえば参加している」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	100.0
県	63.5
全国	67.9

（７）ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことが「ある」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	100.0
県	71.4
全国	71.9

（８）自分には、よいところが「ある」「どちらかといえばある」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	100.0
県	77.3
全国	76.3

（９）学校に行くのは「楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	100.0
県	89.8
全国	86.3

（１０）いじめは、どんな理由があっても「いけないことだと思う」と答えた児童の割合は、全国や県を上回る。

学校	100.0
県	86.8
全国	83.1

４　調査結果を踏まえた改善方策

①国語科での改善策

・ローマ字を正確に覚えさせるとともに、パソコン等で使う機会を設ける。
・聞き取ったことをメモにとりまとめさせる。
・説明文や物語文などの長文を読む機会を増やし、読み取る力をつけていく。
・並行読書をし、自分で学習を進め、自分の考えなどをまとめさせて書かせていく。
・図表やグラフ、写真や新聞記事等から読み取れることや伝えたいこと等について考えたり、自分の考えをまとめたりする活動を取り入れる。（国語以外の教科でも）
・時間・字数・使用する語句など条件を指示して文章を書く機会を設ける。

②算数科での改善策

・単位量あたりの量の出し方を理解させる。
・問題をしっかり読んで、題意をつかませる。
・必要な用語や数字を適切に使って説明する活動を増やす。
・基礎的な問題は概ね出来ているので、複数の情報が出てくる問題など発展問題に数多く取り組ませる。
・表やグラフから必要な情報を読み取る力をつけさせる。
・図形の性質を使った活用問題に慣れさせる。

一部を取り出しての２次利用、また再配布を禁ず。　　印南町教育委員会